

風の輪

広がりがつつある理解の輪

行動障がいがテーマの発達講座に257人が参加

10月5日(土)、水仙福祉会主催により、発達講座を開催した。テーマは「行動障がいへのアプローチ」医療・心理と連携した本人主体の福祉を考える」。参加者は257人。会場はほぼ満席で、施設職員、家族、教員など、障がいのある人と関わっている方々の熱気に包まれた。

この講座は、行動障がいといわれている人たちをどう理



シンポジウムの様子

解し関わるかについて、当法人の考え方や実践を、多くの方に発信する目的で行なっているもの。講座を始めて、今年で4年目となる。精神科医療との連携を考えた昨年の講座が好評だった

稲垣氏の講演では、「医療は本人のコンディションを整えるために使うものであって、関わりの中

関わりを中心は支援者

め、今年は内容をさらに深め実施することとなった。当日のプロ

プログラムは、精神科医・稲垣亮祐氏の講演、支援員による、医療と連携しながら支援した事例の報告、桃山学院大

求められる事例検討の場

学教授・松端克文氏の講演、シンポジウムと続いた。



追加コメントをする事例発表者

「行動障がいは、人との関係や環境により作られるもの、問題行動という形にならざるを得ない本人の苦しい状況を表していることがよく分かった」との意見が多数あった。また、事例について話し合い

たいという希望が数多く寄せられた。